

国立研究開発法人科学技術振興機構  
「科学と社会」推進部

未来共創イノベーション活動支援  
平成 30 年度採択企画最終ヒアリング結果報告書

1. 企画名 こまつしまリビングラボ

2. 提案機関 国立大学法人徳島大学

3. 企画の概要

徳島県小松島市で進行中の産直市「みはらしの丘あいさい広場」の再開発に合わせて、地産地消のアクションを科学的思考に基づき社会に醸成する『こまつしまリビングラボ』を実装することを目的とする。リビングラボの構造は、市民科学を社会に浸透させるために有用な手段となる。本事業では、年間小松島市人口の 15 倍以上の買い物客が集まるこの産直市を多様なステークホルダーが日常の延長で集まる格好の場と捉え、大学、高校、病院、企業、飲食店、新規就農者、地元農家、JA、行政、買い物客を結びつける共創環境の可能性を検討する中で『こまつしまリビングラボ』の自立・持続的運営ができる体制を構築し、地域の食を通じた健康づくりを目指す。

4. 最終ヒアリング結果総合所見

計画は達成され、ネットワークの定着・継続・発展が期待できる。

「みはらしの丘あいさい広場」を拠点に市民が体験的に科学技術を学び活用する「こまつしまリビングラボ」を立ち上げたこと、学内の地域共創センターにおいて共創の手法を教育の中に取り入れたこと、市役所や地元企業の若手を対象として共創活動の重要性を理解する人材育成を行ったこと等、実効性のある共創的活動は長期的な視点での成果の展開と発展を試みており評価できる。さらに、多くのイベントをしかけるなかで多様なステークホルダーを巻き込みながらネットワーク形成を遂げてきたことも評価したい。

しかしながら、本企画の最終目標にある「暮らしの目線に立ったイノベーションを持続的に生み出す」について、成果が「暮らしの目線に立った」ものになっているかどうかを今一度確認したうえで、今後の活動においても反映していただきたい。また掲げているアウトカムのうち、「地産地消や食を通じた健康づくりに関する科学的知識の醸成」は、地域課題解決の一定の寄与はあったものの、効果が達成できているとは言い難く、科学技術コミュニケーションの重要な目的である科学的知識の理解および科学的根拠に基づき、かつ、暮らしの目線にたった応用について、充実して頂きたい。今後の活動の継続に期待したい。

以上